インタビュー

協栄産業㈱
取締役 常務執行役員 トータルソリューション事業本部長
萩谷 昌弘 氏

# ロボソリューション事業が拡大

## 22年度に売上高25億円を目標

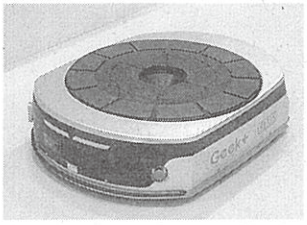
協栄産業㈱（東京都渋谷区松濤2－20－4、☎03－3481－2111）のサービスロボットソリューション事業への注目度が増している。物流倉庫や製造工場で使用する搬送系ロボットを中心に、ロボットシステムの構築に必要な要素を総合的にコーディネートする事業で、新型コロナウイルスの世界的な拡大を受け、幅広い業種で省人化やソーシャルディスタンスの確保などが求められるなか、同事業への引き合いも高まっている。取締役 常務執行役員でトータルソリューション事業本部長の萩谷昌弘氏に話を伺った。

――ロボット関連事業の直近の引き合いは。

萩谷 主力品のギークプラス社（中国・北京市）の製品を中心に好調に推移している。同社は搬送型ロボットなどを扱うベンチャーで、2015年設立の企業でありながらグローバルで200社以上に採用され、1万台以上の出荷実績を持つ。当社は18年1月にギークプラス社と業務提携し、資材の運搬用途のほか、施設内の商品棚を作業員のいる場所まで運ぶ「商品ピッキング用ソリューション」の提供も行っており、19年度は大手安全衛生メーカー様、大手エレクトロニクスメーカー様、大手物流会社様の物流施設などに製品を納入した。

――そのほかのロボット製品は。

萩谷 ㈱Doog（茨城県つくば市）の追従運搬ロボット「サウザー」の引き合いも増えている。人の運搬作業を補助する移動型ロボットで、簡単なボタン操作で人もしくは台車を認識させることにより、荷物を載せたサウザーがそのあとを自動的に追従する。運搬作業者の負担や人数を減らし、設備や現場作業の工程を大きく変えることなく生産性を向上させることができ、直近では大手航空会社で採用された。当社とDoogの技術を融合し、ライントレース機能を遠隔で操作したり、サウザー本体の上に特殊用途の装置を載せて走行するなどサウザーの新たなソリューション開発も進めており、このほかにも各メーカーが開発したロボットに当社の技術を組み込んで、各種ロボットの機能や用途の幅を拡大する取り組みを進めている。



ギークプラス社の搬送型ロボット

――新型コロナの影響は。

萩谷 新型コロナウイルス感染症の世界的な広がりを受け、インターネット通販の利用や特定の商品の需要が増加している。当社のお客様のなかにも物流量が急増された方がいるが、ロボットの活用によって対応力を高めることに成功している。こうした事例を受け、人手不足かつ物流量が増えている業界からはロボットに対するニーズが高まっており、当社でも商談ベースでは60～70件程度の話が進んでいる。

――事業を展開するうえでの強みは。

萩谷 物流施設などへのロボットの導入には、WMS（倉庫管理システム）との連携など製造現場へのロボットの導入とは異なるノウハウが求められるが、当社ではロボットの販売だけでなく、保守メンテナンス、システムの設計・開発、クラウドサービス、パーツや周辺機器の販売・提案など、サービスロボットに関する総合的なコーディネートが行える。また、パレタイジング／デパレタイズロボットなども提供でき、物流・製造現場における搬送工程の自動化ソリューションを総合的に提供できる。

――今後の方針を。

萩谷 新型コロナの影響で不透明な部分が多いが、搬送関連のロボット需要は高まっており、当社としては人員や商材を拡充していくとともに、既存の商材に新しい機能を付帯するような取り組みもメーカーと連携して進めていきたい。サービスロボットのソリューション事業は新規事業として17年ごろから本格的に事業展開を開始し、着実に実績を積み上げてきた。そして、20年度からは新しく組織したトータルソリューション事業本部においてロボット関連の営業チームを整備した。社内でもロボット分野への期待値は高く、今後はインターネット通販や3PL（サード・パーティ・ロジスティクス）関連企業の物流施設に加え、メーカーの製造現場や倉庫向けにも提案を強化していき、作業員の方の負担軽減に加え、ソーシャルディスタンスの確保や3密回避にも貢献できるようなソリューションを提案していくことで、サービスロボットや搬送ロボットを中心とした事業で22年度には売上高25億円を目指していきたい。

（聞き手・浮島哲志記者）